

豊橋市内で確認されたウスイロオカチグサ

西 浩孝*

Record of *Solenomphala debilis* (Gastropoda: Assimineidae) from Toyohashi, Aichi Prefecture, Japan

Hiroataka Nishi*

はじめに

ウスイロオカチグサ *Solenomphala debilis* は、カワザンショウガイ科に属する陸産貝類である。本種の生息環境はナガオカモノアラガイなどと類似し、水田の畦や水路岸の草地の根元といった湿潤な環境である（矢野・増田，1999）。

本種は沖縄、奄美諸島に分布するとされ、九州以北では熊本県熊本市から報告されているのみであったが（岡本，1969），1990年代以降に山口県（保坂，1996），愛媛県及び高知県，香川県，和歌山県（矢野・増田，1999），兵庫県（木村，1996），大阪府（松村，1997），三重県（木村，2011），静岡県（早瀬，2008），千葉県（多留，2010）など本州四国の各地でも生息が確認された。愛知県内では蒲郡市西田川と渥美半島から報告がある（木村，2005）。また，屋内における記録としては，西・松岡（2013）が豊橋市の豊橋総合動植物公園から報告している。

今回，新たに豊橋市内の2地点において本種の生息が確認されたので報告する。

採集地の状況

2012年10月29日，愛知県豊橋市多米中町1丁目の朝倉川において，中洲の礫や植物の根元から発見された（第1図a，第2図）。朝倉川は弓張山地の多米町滝ノ谷地内（多米峠付近）を源とする，流路延長8.63 kmの一級河川である。上流の滝ノ谷にはビオトープ

や滝ノ谷池がある。生息地周辺は住宅街である。生息地において川の両側はコンクリート護岸となっており，右岸には川沿いの遊歩道から河川敷に降りられるように階段がつけられている。

2012年10月31日，豊橋市自然史博物館ボランティアの加藤利依氏によって，豊橋市牛川町字寺前で採集された本種の死殻1個体が持ち込まれた。著者が11月26日に現地を確認したところ，コンクリート三面張りの水路に堆積した土砂や植物の根元から生貝の生息が確認された（第1図b）。周辺は住宅地と果樹園や畑が隣接する地域である。

また，筆者は2008年9月27日には，梅田川の河口付近において，本種の死殻を採集している。しかし，他河川から三河湾に流出したものが流れ着いた可能性もあり，実際に生息している場所は不明である。

標 本

カワザンショウ科 Family Assimineidae

ウスイロオカチグサ *Solenomphala debilis* (Gould, 1859)

採集地 愛知県豊橋市多米中町1丁目 朝倉川

採集年月日 2012年10月29日

採集者 西 浩孝

豊橋市自然史博物館保管 (TMNH-MO-23817 ~ 23820, 4個体)

計測 殻径 3.3 mm, 殻高 4.5 mm (TMNH-MO-23817)

* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

原稿受付 2012年12月14日. Manuscript received Dec. 14, 2012.

原稿受理 2012年12月28日. Manuscript accepted Dec. 28, 2012.

キーワード: 外来種, ウスイロオカチグサ, 愛知県.

Key words: alien species, *Solenomphala debilis*, Aichi Prefecture.

採集地 愛知県豊橋市牛川町字寺前の水路

採集年月日 2012 年 10 月 25 日

採集者 加藤利依

豊橋市自然史博物館保管 (TMNH-MO-23821, 1 個体)

計測 殻径 2.4 mm, 殻高 3.4 mm (TMNH-MO-23821)

採集地 愛知県豊橋市牛川町字寺前の水路

採集年月日 2012 年 11 月 29 日

採集者 西 浩孝

豊橋市自然史博物館保管 (TMNH-MO-24673 ~ 24684, 12 個体)

計測 殻径 3.5 mm, 殻高 5.0 mm (TMNH-MO-24673)

考 察

南西諸島以外で発見された個体群が、在来の個体群か移入個体群かについては議論がある。木村(1996)は、発見された場所が都市近郊で比較的交通の往来の盛んな場所であること、生息範囲が限られていること、以前の調査記録に含まれていないことなどから近年人為的に移入されたものと結論づけている。また、Fukuda and Ponder (2003) は、本種は中国に分布するイトカケオカチグサ *Solenomphala scalaris* や台湾に分布するタイワンオカチグサ '*Assiminea*' *taiwanensis* と同種であり、日本の個体群は中国からの園芸植物に付随して移入したと推論している。それに対し、矢野・増田 (1999) は、本州中部以北で発見されていないこと、多くの場所では水田地で発見され直接的に植物随伴種とは考えにくいこと、本種の生息環境が陸淡水産貝類の調査、採集において無視されやすい場所であり、近年まで生息が見過ごされたと考えられることから、多くは在来とみなすのが自然であると論じている。今回の生息地においても、周辺には直接的に移入の原因となるような園芸業者や植物園のような施設はない。しかし、いずれも都市近郊であり、県内外の各地に本種の生息が広がっている現状において、土砂や植木等に随伴して移入したものである可能性が高いと考えられる。

謝 辞

豊橋市自然史博物館ボランティアの加藤利依氏には、豊橋市内の陸産貝類の分布調査に協力いただき、本種の発見につながった。記してお礼申し上げる。



第1図. 生息地の様子.

a: 豊橋市多米中町1丁目 朝倉川.

b: 豊橋市牛川町字寺前の水路.



第2図. ウスイロオカチグサの標本写真. 朝倉川産 (TMNH-MO-23817). バーは 1 mm.

引用文献

- Fukuda, H. and Ponder, W. F., 2003. Australian freshwater assimineids, with a synopsis of the Recent genus-group taxa of the Assimineidae (Mollusca: Caenogastropoda: Risssooidea). *Journal of Natural History*, **37**: 1977–2032.
- 早瀬善正, 2008. 静岡市清水区能島遊水地におけるナガオカモノアラガイの生活史. 兵庫陸水生物, (60): 151–157.
- 保阪健市, 1996. 山口県宇部市で1996年に採集された移入非海産腹足類3種. ユリヤガイ, **4** (1/2): 191–194.
- 木村昭一, 1996. 兵庫県神戸市で採集されたウスイロオカチグサガイ. ちりぼたん, **26**: 81–84.
- 木村昭一, 2005. 蒲郡市西田川の貝類相. かきつばた, (31): 32–35.
- 木村昭一, 2011. 三重県津市で確認された移入陸産貝類3種. かきつばた, (36): 59–60.
- 松村 勲, 1997. 大阪狭山市で採集したウスイロオカチグサ. ちりぼたん, **27**: 70.
- 西 浩孝・松岡敬二, 2013. 豊橋総合動植物公園で確認された陸産貝類の追加種. 豊橋市自然史博物館研報, (23): 29–31.
- 岡本正豊, 1969. 雑記帳・熊本県の貝. ちりぼたん, **5** (7): 205–207, 表紙裏面写真.
- 多留聖典, 2010. 関東地方で初めて確認されたウスイロオカチグサ(新生腹足上目: カワザンショウ科)の野外個体群. *Molluscan Diversity*, **2**: 7–10.
- 矢野重文・増田修, 1999. 西日本におけるウスイロオカチグサガイの記録. ちりぼたん, **30**: 9–12.